

福岡県総合防災訓練視察

廣崎 誠治

5月28日(日)、平成29年度福岡県総合防災訓練が、吉富町小祝の吉富漁港をメインに行われ、視察を行った。

当日は、県と関係自治体、消防、警察、自衛隊、医療関係機関、地元住民など1300人が参加し、車両約90台とヘリコプターなどの航空機9機、船舶3隻も出動し、災害時の連携や役割などを確認をした大規模な訓練であった。



■目的

災害対策基本法、福岡県地域防災計画及び京築広域圏消防本部管内(吉富町・豊前市・上毛町・築上町・みやこ町)の地域防災計画に基づき、吉富町館内に災害が発生したとの想定のもと、福岡県、地域自治体及び防災関係機関並びに地域住民が一体となって実効性のある総合的な防災訓練を実施する。

■訓練の想定

東日本大震災、平成24年7月梅雨前線豪雨災害及び平成28年熊本地震等を踏まえ、風水害及び地震・津波災害を想定した訓練を実施する。また近年の災害を教訓として新規種目を実施し、勤めて多くの地域住民が参加する訓練とする。また県境に近いこと、大分県の協力も得る。

■実施内容

初動対応訓練、風水害対策訓練などの従来の訓練に加え以下の訓練を実施する。

■主な新規訓練(一部抜粋)

- 救援物資輸送訓練(孤立集落に対する救援物資輸送)
- 車中泊避難者の把握・健康支援訓練(熊本地震で多くの車中泊あり、避難者の把握、健康相談やエコノミークラス症候群などの疾病予防啓発を実施)
※上記の訓練は上毛町役場 子ども未来課、長寿福祉課が全面支援した
- その他、住民主体による避難所開設・運営訓練、応急架橋設置・通過訓練等

災害対策は「準備しすぎ、心配しすぎ」ということは決してないと思う。行政が責任をもってやっていくことが重要であり、私たち議員にとっても、日ごろの心構えの大切さを再認識した訓練であった。

また、去る7月5日に九州北部を襲った豪雨では、県内外に想像を絶する多くの被害が出ている。被災された方々に対し、あらためて追悼の意を表し、お見舞い申し上げます。

研修会

全国町村議会議長副議長研修会報告

宮本 理一郎

5月31日(水)、東京都中野サンプラザで全国町村議会議長副議長研修会が開催され、参加した。

議会の活性化対策で効果・実績を上げている二自治体の活動報告があった。京都府の精華町議会は「議会活性化の取り組みが期待される議会の姿」、北海道浦幌町議会は「身の丈にあった活性化から一步一步前進する議会」というテーマで、取り組み状況と実績の報告が行われた。

●主な取り組み

- ①通年議会の試行と実施
- ②産前産後休暇制度の創設
- ③議員定数、報酬の改定と提言
- ④一般質問の一問一答式導入
- ⑤町長等の反問件の付与
- ⑥傍聴の推進等多岐にわたる取り組み

この様な取り組みにおいて、我々が目指すべき最大の施策は、「開かれた議会」の実現であるという事。そしてこれを実現するためには、

■町民参加、町民との協働

■説明責任と情報公開

■議会権の発揮

■政策提案、提言

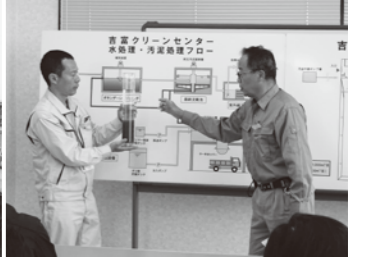
これを持って、地域住民の開かれた議会にすべきとの結びであった。上毛町議会においても積極的な取り組みにより「開かれた議会・住民のための議会」であることを認識し、持続的で豊かな町づくりに寄与することである。

全国町村議会の議長・副議長と一同に会し、大変有意義で価値ある研修であった。

し尿処理場、ゴミ焼却場などを視察

三田 敏和

4月26日(水)、議会全員協議会において、広域行政上、今後に課題を残す2施設、吉富町外1町環境衛生事務組合(し尿処理場:吉富町)、豊前市外二町清掃施設組合(ゴミ焼却残渣最終処分場:上毛町下唐原)および、吉富町下水道処理施設(吉富町小祝)を視察した。



吉富町外1町環境衛生事務組合 し尿処理場「周防苑」

上毛町、吉富町で日々発生する、生し尿、浄化槽汚泥、農業集落汚泥を2町で管理運営している、し尿処理場「周防苑」で処理、ろ過後河川に放流している。同施設は昭和46年4月に竣工、すでに46年が経過している。設備の老朽化に伴い、更新が急務になっている。

現状

1. 計画処理能力 20kℓ/日
2. 処理量(平成28年度) 単位 kℓ

	上毛町	吉富町	合計
生し尿	2,546	2,763	5,309
浄化槽汚泥	2,442	1,090	3,532
農業集落汚泥	498	0	498
計	5,486	3,863	9,339
1日当たり	15.03	10.56	25.59
3. 管理体制 事務職員2名(火葬場管理も含む)
現場職員1名現場臨時職員4名
4. し尿処理場管理費 36,788千円(平成27年度実績)
5. 汚泥物乾燥肥料(アルファ)無料配付
年間生産量 20kg×4,550袋=約91t(農地還元)
農家のみなさんが引き取り、畑や田んぼに還元される。
■引取先内訳(平成28年度)
上毛町/約22t 吉富町/約16t 構成町外/約53t

●し尿処理場更新計画

施設の老朽化が進み、平成24年より更新計画の検討に入ったが、途中豊前市を中心に、し尿を処理している豊前広域環境施設組合(豊前市、築上町、みやこ町)で液肥化の案が浮上し、一時状況を見守るため検討を見合わせた。

その後、築上町の脱退、続いてみやこ町も脱退し、豊前市のみになっている。現在、豊前市は下水道管投入方式を検討している。我々の組合に加入の勧めがある中で、更新計画の年間管理費は「試算中」であるが、事業費は半値以下である。

現時点での概算案

方式	事業費	事業費実質負担額	年間管理費
吉富下水道施設投入方式	20億200万円	10億3982万円	6557千円
河川放流方式(当初案)	24億8400万円	13億9941万円	6554千円
豊前の組合加入下水道管投入方式	約10億円	約3億円	試算中

※事業費実質負担額は吉富町と上毛町の合わせた負担額

豊前市外二町清掃施設組合 最終処分場

昭和58年、豊前市外二村(新吉富村、大平村)でゴミ焼却炉の運転が始まり、のちに吉富町が加わる。最終処分場の建設は昭和58年度～59年度、昭和60年4月より、埋め立てを開始している。埋め立て開始後32年が経過しており、現在の残容量からすれば、平成32年度末が埋め立て終了見込みとなる。

現状

1. 埋立面積 10,100㎡
2. 埋立許容量 46,000㎡
3. 埋立容量 34,700㎡
4. 残余容量 11,300㎡

●今後の見通し

埋立終了/平成32年度末

今後、地下水などの水質状況、埋立地の保有水などの水質状況、ガスの発生状況などを確認し、最終処分場の廃止に至る見通し。今後新たな最終処分場が必要となる。

吉富町下水道処理施設

平成9年9月、事業認可を受け、工事に着手平成16年3月に供用開始している。平成28年度末の接続戸数は716戸になっている。終末処理場が吉富町大字小祝の吉富漁港内にある。汚泥物はセメントの原材料として再資源化、紫外線処理された水は最終沈澱池を経由して放流されている。